

令和 2 年 度

予 算 に 関 す る 説 明 資 料

(一般会計補正予算第2号)

北 海 道 上 川 郡 清 水 町

事業シート (概要説明書)

事業名	渋沢栄一翁関連事業			事業開始年度	令和元年度			
予算事業名	地方創生・広域連携事業			担当課名	企画課			
総合計画事業名	渋沢栄一翁関連事業			担当係名	統計企画係			
総合計画基本構想	第4編 第3章 まちの資源を活かした産業の振興と連携の促進			作成責任者	川口二郎			
実施の背景	清水町開拓の起源となる十勝開墾合資会社に深く関わった渋沢栄一翁が、2024年に刷新される新一万円札の肖像に決まったことから、関連団体との交流が始まる。							
目的 (何をどうしたいのか)	清水町の歴史を掘り起こし、世代を超えた郷土交流の循環により郷土教育の充実と郷土愛を育む。 官民連携により関係人口の増加を図り、清水町の知名度向上と魅力を全国へ発信する。							
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	町民、埼玉県深谷市、東京都北区				対象者数 (全住民に対する割合)		
						9,320	人	(100.0 %)
	実施方法	■直接実施						
		□業務委託 (委託先:)						
		□補助金〔直接・間接〕(補助先: 実施主体:)						
		□貸付(貸付先:) □その他()						
	事業内容 (手段、手法など)	事業内容 (箇条書き)		事業費		活動指標		
		町民ツアー地域視察事業 (時期未確定)			千円	町民30人、引率6人		
		食育広域連携事業 (時期未確定)			千円	煮ぼうとう研究会3人		
		東京都北区連携事業 (時期未確定)			千円	大河ドラマ関連施設出店3人		
文化史跡管理事業		40	千円	十勝開墾合資会社跡他3史跡				
文化史跡案内パンフレット作成事業		110	千円	2,000部				
文化史跡紹介看板設置事業		1,649	千円	十勝開墾合資会社跡他2箇所				
郷土史関連書籍購入事業		200	千円	渋沢栄一関連書籍100冊				
公民館講座事業 (ふるさと講座分)		350	千円	渋沢栄一記念財団札幌学院大学				
関連事業 (同一目的事業等)	文化振興事業、中央公民館事業、図書館・郷土史料館運営事業							
コスト	3年度以降 (計画)		2年度 (予算)		元年度 (見込)		平成30年度決算	
	事業費合計	3,460	千円	2,349	千円	614	千円	
事業費内訳 (2年度分)	文化史跡関連経費 2,349,000円							
財源内訳	国道支出金		千円		千円		千円	
	国道支出金の内容							
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特財		千円	1,600	千円		千円	
	その他特財の内容 公共施設建設等基金繰入金							
	一般財源	3,460	千円	749	千円	614	千円	0
財源合計	3,460	千円	2,349	千円	614	千円	0	千円

事業シート（概要説明書）						
事業名		渋沢栄一翁関連事業			事業開始年度	令和元年度
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	元年度	H30年度	H29年度
		埼玉県深谷市交流	回	1回	/	/
		「渋沢栄一翁関係団体の集い」		/	/	/
				/	/	/
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	渋沢栄一翁生誕の地である埼玉県深谷市と、渋沢栄一翁終焉の地である東京都北区との交流を継続して進める。 2022年の清水町開町120年に向けて渋沢栄一翁に係る関係史料の充実を図る。 2024年の新一万円札発行に向けて埼玉県深谷市、東京都北区との連携を深める。				
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	元年度	H30年度	H29年度
		埼玉県深谷市交流	回	1回	/	/
		「渋沢栄一翁関係団体の集い」		/	/	/
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	埼玉県深谷市、東京都北区との相互交流により郷土史への関心を高めるとともに、郷土愛を育み様々な分野での連携に向けて関係を構築する。					
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）						
特記事項						



十勝開墾合資会社×渋沢栄一翁プロジェクト



町民とのつながり

町外とのつながり

拠点整備

郷土愛の醸成

渋沢翁をご縁とする関係人口づくり

食産業

観光

令和2年度（2020年）

文化史跡看板設置
↳ 関連施設の拠点表示

郷土史講座実施
↳ 郷土研究で歴史の掘り起こし

渋沢栄一翁町民ツアー
↳ 出生の地深谷市・終焉の地東京都北区の関連施設の視察や各種団体との交流を通し、郷土愛の醸成を図り、先人の育んだ清水らしさを引き継ぐ

十勝開墾合資会社探訪日帰りバスツアーの企画・検討
↳ 渋沢と清水町をつなぐPR、清水町の強みである食のPR

第1フェーズ

十勝開墾合資会社と渋沢栄一翁の関係周知



関連書籍整備
↳ 関連書籍の充実を図り研究拠点機能を持たせる

郷土史ガイドボランティア育成
↳ 郷土史ガイド育成

コミュニティスクール・十勝清水学の充実
↳ 地域に誇りを持ち生涯を通じて故郷清水町とつながる子どもの育成



食文化交流
↳ 渋沢が愛した「食」のつながり、深谷煮ぼうとう研究会との交流、十勝清水の恵み給食週間で「煮ぼうとう」の提供

文化史跡案内パンフレット作成
↳ 観光資源として関連史跡を掲載

埼玉県深谷市・東京都北区等との経済交流
↳ 大河ドラマ関連施設との連携・首都圏への特産品等のPR

令和3年度（2021年）

郷土史料館改修検討
↳ 研究拠点機能施設として再整備

修学旅行先として検討
↳ 郷土の歴史を学び郷土愛を育む

埼玉県深谷市・東京都北区からの北海道十勝観光ツアー
↳ 文化史跡・4景プラス1・食をPR

地域力創造アドバイザー制度活用による外部専門家を招へい → 眠れる資源を活用しミライに継承する文化観光の創発

令和4年度（2022年）

第2フェーズ

渋沢栄一翁に関する多様な交流



開町120年記念誌発刊
↳ 十勝開墾合資会社に関わる郷土史検証、郷土史料の充実

開町120年

各種団体との連携
↳ 農業王国の強みを活かした連携、特産品の融合による新商品の開発

開町120年記念事業
↳ 郷土の歴史と渋沢の関連性をPR

令和5年度（2023年）

令和6年度（2024年）

第3フェーズ

渋沢栄一翁の理念と功績の浸透・郷土愛醸成



新一万円札発行

渋沢栄一翁新一万円札発行記念事業
↳ 関連団体と連携

目指す姿

清水町の歴史を掘り起こし、世代を超えた郷土交流の循環により郷土教育の充実と郷土愛を育む。官民連携により関係人口の増加を図り、清水町の知名度向上と魅力を全国へ発信する。

事業シート（概要説明書）

事業名	清水高校振興会補助（通学費助成分）事業		事業開始年度	令和2年度	
予算事業名	高校振興事業		担当課名	学校教育課	
総合計画事業名	清水高校振興会補助（通学費助成分）事業		担当係名	総務係	
総合計画基本構想	第3編 第1章 家庭・学校・地域がともに推進する教育のまちづくり		作成責任者	大尾 智	
実施の背景	清水地域の農村部から清水高校に通う生徒は、町のスクールバスに便乗することができ、通学に係る交通費が無料となっている。しかし、御影地域から清水高校に通う生徒は、スクールバスの運行時間の関係上便乗することができないため、JR及び高校通学バスを利用して通学しており、交通費の負担軽減に対する要望が上がっていた。				
目的 (何をどうしたいのか)	御影地域から清水高校へ通う生徒に対し、JR又は十勝バス（高校通学バス）の通学定期代金についてその全額を補助し、保護者負担を軽減するため、清水高校振興会に対する補助金をとして「通学費助成分」として交付する。				
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	御影地域（御影中学校校区）から清水高校に通学する生徒		対象者数（全住民に対する割合）	
				30	人（ % ）
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託（委託先： ） <input checked="" type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕（補助先：清水高校振興会 実施主体：町 ） <input type="checkbox"/> 貸付（貸付先： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）			
	事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）	事業費	活動指標	
		清水高校振興会（通学費助成分）補助金	3,114	千円	
				千円	
			千円		
			千円		
			千円		
関連事業 (同一目的事業等)					
コスト	事業費	3年度以降（計画）	2年度（予算）	元年度（見込）	平成30年度決算
	事業費合計	3,114 千円	3,114 千円	千円	千円
	事業費内訳 (2年度分)	【積算】 $8,650円 \times 12月 \times 30名 = 3,114千円$ 【積算根拠】 JR及び十勝バスの定期代金のうち最も高額となる「十勝バス1月定期」の年間額に対象者となりうる生徒数を乗じたもの。 【参考】 ○JR定期代 十勝清水駅 ←→ 御影駅 1月 7,490円 3月 21,360円 6月 40,510円 ○十勝バス定期代 清水高校前 ←→ 御影駅前又は羽帯（乗車料金同額） 1月 8,650円 2月 16,800円 3月 24,650円 ※半月定期、片道定期あり（それぞれ、1月・往復の半額）			
財源内訳	国道支出金	千円	千円	千円	千円
	地方債	千円	千円	千円	千円
	その他特財	3,100 千円	3,100 千円	千円	千円
	一般財源	114 千円	114 千円	千円	千円
	財源合計	3,214 千円	3,214 千円	千円	千円

事業シート（概要説明書）

事業名		清水高校振興会補助（通学費助成分）事業				事業開始年度		令和2年度																																																						
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）		単位	元年度	H30年度	H29年度																																																							
					/	/	/																																																							
					/	/	/																																																							
					/	/	/																																																							
					/	/	/																																																							
					/	/	/																																																							
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	交通費の全額補助により保護者負担を軽減し、町内中学校、特に御影中学校の卒業生に進学先として清水高校を選択してもらえる環境を充実させ、入学者に占める比率を高めることにより、入学者数の維持に繋げる。																																																												
		【参考】 北海道清水高等学校 町内出身中学校別在籍数及び比率																																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">平成28年度</th> <th colspan="2">平成29年度</th> <th colspan="2">平成30年度</th> <th colspan="2">平成31年度</th> <th colspan="2">令和2年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>清水中学校</td> <td>73</td> <td>18.2%</td> <td>69</td> <td>17.6%</td> <td>72</td> <td>19.7%</td> <td>71</td> <td>21.8%</td> <td>78</td> <td>27.6%</td> </tr> <tr> <td>御影中学校</td> <td>16</td> <td>4.0%</td> <td>19</td> <td>4.8%</td> <td>25</td> <td>6.8%</td> <td>25</td> <td>7.7%</td> <td>28</td> <td>9.9%</td> </tr> <tr> <td>清水町内計</td> <td>89</td> <td>22.1%</td> <td>88</td> <td>22.4%</td> <td>97</td> <td>26.6%</td> <td>96</td> <td>29.5%</td> <td>106</td> <td>37.5%</td> </tr> <tr> <td>全校生徒数</td> <td colspan="2">402</td> <td colspan="2">393</td> <td colspan="2">365</td> <td colspan="2">325</td> <td colspan="2">283</td> </tr> </tbody> </table>									平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度		清水中学校	73	18.2%	69	17.6%	72	19.7%	71	21.8%	78	27.6%	御影中学校	16	4.0%	19	4.8%	25	6.8%	25	7.7%	28	9.9%	清水町内計	89	22.1%	88	22.4%	97	26.6%	96	29.5%	106	37.5%	全校生徒数	402		393		365		325	
	平成28年度		平成29年度		平成30年度		平成31年度		令和2年度																																																					
清水中学校	73	18.2%	69	17.6%	72	19.7%	71	21.8%	78	27.6%																																																				
御影中学校	16	4.0%	19	4.8%	25	6.8%	25	7.7%	28	9.9%																																																				
清水町内計	89	22.1%	88	22.4%	97	26.6%	96	29.5%	106	37.5%																																																				
全校生徒数	402		393		365		325		283																																																					
事業成果	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）		単位	元年度	H31年度	H30年度																																																							
					/	/	/																																																							
					/	/	/																																																							
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）		【方向性】 今後も中学校卒業者が減少する中、本事業により帯広方面の高校ではなく清水高校での学びを選択してもらおう施策として、また、JRやバスの利用促進に繋げることによる、公共交通機関の施設や路線の存続に寄与できるものとして継続する必要がある。 【課題】 本施策と併せて、清水高校の学校としての魅力を高めるための支援も、継続して実施する必要がある。																																																												
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）																																																														
特記事項																																																														

事業シート（概要説明書）

事業名	小中学生スポーツ活動送迎事業		事業開始年度	令和元年度				
予算事業名	保健体育事業		担当課名	社会教育課				
総合計画事業名	小中学生スポーツ活動送迎事業		担当係名	スポーツ係				
総合計画基本構想	第3編 第3章 スポーツ・レクリエーションに親しむまちづくり		作成責任者	佐々木 亘				
実施の背景	小中学校におけるスポーツ活動において、部員・団員の減少等により、学校単位でチーム編成が困難な活動（部活・少年団）においては、他地区（清水、御影、近隣町）との合同でのチーム編成となり、練習への移動等について負担もあることから、青少年スポーツの振興を図るため送迎バスを運行する。							
目的 (何をどうしたいのか)	部活動及び少年団活動において、清水から御影、御影から清水へ、または他町へ移動が必要な部活動や少年団で活動する小中学生に対し、送迎バスを運行することにより、活動しやすい環境を整え、スポーツ活動を円滑、効率的に進める。							
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	小中学生（部員・団員）				対象者数（全住民に対する割合） 人（ % ）		
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施						
		<input checked="" type="checkbox"/> 業務委託（委託先：清水町社会福祉協議会）						
		<input type="checkbox"/> 補助金〔直接・間接〕（補助先： 実施主体： ）						
		<input type="checkbox"/> 貸付（貸付先： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）						
	事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）		事業費		活動指標		
小中学生スポーツ活動送迎事業		1,115 千円		送迎バス運行日数				
				千円				
				千円				
				千円				
関連事業 (同一目的事業等)								
コスト	3年度以降（計画）		2年度（予算）		元年度（見込）		平成30年度決算	
	事業費合計		1,192 千円		1,115 千円		680 千円	
	事業費内訳 (2年度分)		○小中学生スポーツ活動送迎事業委託料 ・人件費 1,300円×4時間×170日=884,000円 ・通勤手当 340円×170日×1名=57,800円 ・燃料費 110円×6 ¹ / ₂ ×170日×1.10=123,420円 ・労災保険 941,800円×0.003×1名=2,825円 ・福利厚生費 16,000円×1名=16,000円 ・消耗品費 30,000円					
財源 内訳	国道支出金							
	国道支出金の内容							
	地方債							
	1,100 千円		1,100 千円		600 千円		千円	
	その他特財		その他特財の内容 いきいきふるさとづくり基金繰入金					
一般財源		92 千円		15 千円		80 千円		
財源合計		1,192 千円		1,115 千円		680 千円		

事業シート（概要説明書）

事業名		小中学生スポーツ活動送迎事業			事業開始年度	令和元年度
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	元年度	H30年度	H29年度
		送迎バス運行日数	日	134/210	/	/
		送迎人数	人	811/	/	/
				/	/	/
				/	/	/
				/	/	/
				/	/	/
事業成果	成果目標 （指標設定理由等）	継続したスポーツ活動が行えるよう送迎事業を行い、スポーツの振興と活動しやすい環境を整える。				
	成果 （目標達成状況）	【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	元年度	H30年度	H29年度
		送迎バス運行日数	日	134/210	/	/
				/	/	/
事業の自己評価 （今後の事業の方向性、課題等）	令和元年度の利用状況は、中学生の部活動（アイスホッケー部3名、サッカー部4名、野球部9名）での利用であったが、今後は、少子化の影響等もあり、学校単位での部活動や少年団活動は厳しい状況になると予想されることから、送迎事業は必要と考えるが、利用者が増加すれば車両の大型化等の対応も検討が必要。					
比較参考値 （他自治体での類似事業の例など）						
特記事項						

事業シート（概要説明書）

事業名	新型コロナウイルス経済対策事業		事業開始年度	令和2年度				
予算事業名	商工業振興事業		担当課名	商工観光課				
総合計画事業名	商工業振興事業補助		担当係名	商工労政係				
総合計画基本構想	第4編 第4章 商業の活性化と異世代が集う多機能型まちづくり		作成責任者	高橋 英二				
実施の背景	新型コロナウイルス感染症の影響により、消費が大きく落ち込み町の経済に大きな影響をもたらしている。							
目的 (何をどうしたいのか)	新型コロナウイルス感染症により、減速した町の経済を立て直すために、新たにプレミアム率をアップした商品券の販売や飲食店に特化した共同販売促進の事業を行うことにより、町民の町内における積極的な個人消費喚起を行い、町内の商工業者に対して、悪化した経済基盤の立て直しを図ることを目的とする。							
事業概要	対象 (誰・何を対象に)	町民		対象者数（全住民に対する割合）				
				人	(100 %)			
	実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施						
		<input type="checkbox"/> 業務委託（委託先： ）						
		■補助金〔直接・間接〕（補助先： 商工会 実施主体： ）						
	<input type="checkbox"/> 貸付（貸付先： ） <input type="checkbox"/> その他（ ）							
事業内容 (手段、手法など)	事業内容（箇条書き）		事業費		活動指標			
	飲食店に特化した新型コロナウイルス対策共同販売促進事業		300	千円	配布枚数			
	地域活性化生活応援商品券事業（7月） ※4,000組 プレミアム率10%		△4,617	千円	販売組数			
	うきうき商品券事業（5月） ※コロナ対策消費喚起策 7,000組 プレミアム率50%		37,467	千円	販売組数			
				千円				
関連事業 (同一目的事業等)								
コスト 事業費	2年度（補正後）		2年度（当初）		元年度（見込）	平成30年度決算		
	事業費合計 48,259 千円		15,109 千円		10,492 千円	10,678 千円		
	事業費内訳（2年度分） 1. 清水町商工業振興事業補助金（新型コロナウイルス対策） 飲食店に特化した新型コロナウイルス対策共同販売促進事業 ・共同広告チラシ作成（デザイン、印刷、新聞折込） 100,000円×3回=300,000円 2. 地域活性化商品券事業補助金 うきうき商品券（5月発行 新規） ・1組（500円×30枚）15,000円を10,000円で、内2,000円は飲食店限定とする。5月に7,000組を販売する。 ・50%のプレミアム分35,000千円+印刷経費、換金手数料等事務経費(2,467千円)を補助する。							
財源 内訳	国道支出金		千円		千円		千円	
	国道支出金の内容							
	地方債		千円		千円		千円	
	その他特財		千円		千円		千円	
	その他特財の内容							
一般財源	48,259	千円	15,109	千円	10,492	千円	10,678	千円
財源合計	48,259	千円	15,109	千円	10,492	千円	10,678	千円

事業シート（概要説明書）

事業名		新型コロナウイルス経済対策事業			事業開始年度	令和2年度
事業実績	活動実績	【活動指標名】（実績値/目標値）	単位	元年度	H30年度	H29年度
		プレミアム付き商品券販売組数	組	9,800/9,800	10,100/10,100	9,800/9,800
				/	/	/
				/	/	/
				/	/	/
				/	/	/
事業成果	成果目標 (指標設定理由等)	1. 新型コロナウイルス対策共同販売促進事業については、特に影響の多い飲食店に特化した対策として、テイクアウトを中心とした町内飲食店の共同の啓発チラシを配布する。 2. プレミアム付商品券事業については、令和2年度の当初予算では、消費税率改定後の各種の支援策が終了し町内の消費喚起及び下支えとなるため、新たに7月に地域活性化生活応援商品券の販売を行う予定をしていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により売上が落ち込む町内の商工業者に対する経済対策として町内の消費拡大を強力に喚起するために、プレミアム率50%の商品券発行[購入は1万円単位で1万5千円分（5百円券30枚）を5組まで]を早急（5月を目途）に実施するものです。 今回の商品券については、町内事業者を力強く後押しするため、うきうき商品券（ハーモニーカード会加盟店+協力加盟店）とし、特に飲食店の売上の落ち込みが激しいことから、1万5千円分のうち2千円は飲食店限定とする。 ※商品券総額1億5百万円				
		【成果指標名】（実績値/目標値）	単位	元年度	H30年度	H29年度
		共同広告チラシ（3回）	枚	/	/	/
		プレミアム付き商品券販売組数	組	9,800/9,800	10,100/10,100	9,800/9,800
				/	/	/
事業の自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	新型コロナウイルス感染の拡大については、いつ終息になるのか先行きが見えず長期化する恐れが十分にあることから、今後の影響を注視しながら、状況によっては、商品券の増強や新たな割引クーポン券の発行等、町としての支援対策を検討していく。					
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	○プレミアム付き商品券の発行 新得町（30%、1万円 3,000組、内1千円は飲食店限定） 上士幌町（25%、4千円 16,000組） 大樹町（25%、4千円 10,000組） 陸別町（40%、5千円 500組⇒飲食店限定）、（20%、1万円 1,500組⇒通常分） 鹿追町（40%、5千円 5,000組、内千円は飲食店限定） ○クーポン券配布 浦幌町、広尾町、大樹町、上士幌町、芽室町					
特記事項						